

福島大学教育学部 教授 堀 口 知 明
 国立岩手青年の家 所長 黄川田 昌 弘
 福島民報社常務取締役編集主幹 河 田 亨
 福島県青少年会館長 佐 藤 利三郎
 福島県教育庁文化課主幹 皆 川 郁 夫

② 助 言 者

保原町中央公民館長 佐藤 善右ヱ門
 福島県教育庁社会教育課員及び教育事業所員

(4) 参 加 者

市町村社会教育主事、公民館主事（4年勤務以上）

(5) 内 容

- ① 生涯教育構想に立つ公民館事業の計画と運営
- ② 成人教育と学習計画
- ③ 青少年の健全育成と公民館事業
- ④ 芸術文化活動の現状と展望
- ⑤ 放送利用学習

3 社会教育委員研究協議会

(1) 趣 旨

生涯教育に対する認識が高まり、生涯各時期にわたる学習活動や地域活動がきわめて重要視されてきたこのときにあたり県内各地域における社会教育活動の実践の成果や課題について研究協議を行い社会教育の一層の振興を図る。

(2) 主 催

福島県教育委員会、福島市教育委員会、福島市町村社会教育委員連絡協議会

(3) 期日、会場、参加者数

- ① 期 日 昭和56年8月26日
- ② 会 場 ホテル聚楽（福島市飯坂町）
- ③ 参加者数 162名

(4) 参加対象

市町村社会教育委員及び市町村教育委員会事務局職員

(5) 講師、助言者

- ① 講 師
 国立オリンピック記念青少年総合センター青少年活動相談員 増 田 靖 弘
- ② 助 言 者
 福島県教育庁社会教育課員及び教育事務所員

(6) 内 容

- ① 研究主題
 「今日の問題としての青少年非行の実態とその背景を探る」
- ② 講 演
 「青少年非行の実態と大人の役割」
- ③ 全体会による研究協議
 講演に対する質疑応答

4 生涯教育研究協議会・研究大会

(1) 趣 旨

社会教育関係者が一堂に会し、生涯教育の立場から社会教育をどのように体系化し、充実するかについて研究協議し、地域における社会教育活動の拡充を図る。

(2) 期日、会場、参加者数

期 日	管 内	会 場	参加者数
9月22日	県 北	桑 折 町 公 民 館	93名
9月25日	県 中	船 引 町 公 民 館	147名
9月10日	会 津	本郷町老人福祉センター	133名
11月13日	南 会 津	下 郷 町 公 民 館	163名
8月7日	相 双	双 葉 町 公 民 館	156名
10月28日	い わ き	いわき市文化センター	161名
11月26日	県・研究大会	白 河 市 文 化 セ ン タ ー	307名

(3) 講 師

宇都宮大学教授 齋 藤 健次郎
 郡山女子大学講師 佐 藤 正 義
 福島大学教育学部教授 堀 口 知 明
 県立会津短期大学教育 矢 島 博
 福島県教育庁社会教育課長 丑 込 幸 男
 前小高町立小高小学校長 吉 津 守 雄
 静岡県掛川市長 榛 村 純 一

(4) 助 言 者

会場地教育委員会事務局職員、県社会教育課員、教育事務所員、社会教育関係団体代表者、小、中、高校学校教育関係者

(5) 参 加 者

市町村長、同議会議員、同教育委員、社会教育委員、社会教育関係職員、社会教育関係団体代表者、小、中、高校学校教育関係者

(6) 研究内容

- 「生涯教育構想に立つ社会教育活動のあり方」
- ① 地域における社会教育活動を推進拡充するために、公民館の果すべき役割は何か。
 - ② 明るく住みよい地域社会をつくるために、その地域で生活する青、壮、老婦各層の連携をどうすすめたらよいか。

5 東北地区社会教育委員研究大会

(1) 趣 旨

生涯教育構想に立つ社会教育活動の推進のため、社会教育委員の担う役割は、ますます重要であり大きな期待がかけられている。

このときにあたり、東北各県の社会教育委員が一堂に会し、各地における活動状況や、研究成果等について、情報交換や研究協議を行い、もって社会教育の振興に資する。

(2) 期日、会場、参加者数

- ① 期 日 昭和56年8月25日～26日
- ② 会 場 福島市飯坂町 ホテル聚楽
- ③ 参加者数 東北各県の県、市町村社会教育委員会及び社会教育関係者 394名

(3) 講師、助言者

- ① 講 師
 福島県文化財保護審議会委員 高瀬 喜左衛門